

飯塚病院 呼吸器病センター News letter

開設5周年記念懇親会々場

呼吸器病センター

いき息、いいづか

第8号

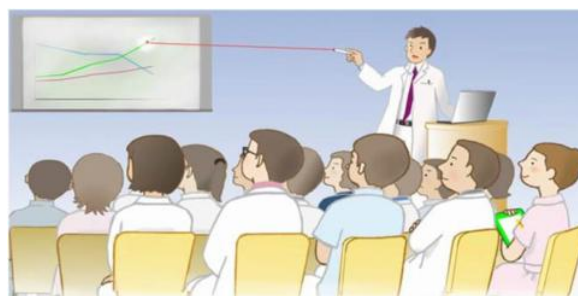


2018年9月4日、第12回筑豊呼吸器RENKEIの会ならびに呼吸器病センターの5周年記念懇親会が開催されました。多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。呼吸器病センターも開設されてはや5年。今後もよろしくお願いいたします。

肺がんキャンサーボードが始まりました！

2018年8月から呼吸器病センターが中心となり肺がんキャンサーボードが始まりました。がんの治療には、手術、薬物治療、放射線治療などがありますが、それぞれの領域の進歩は非常に早いため、単一診療科だけでは最良の医療は提供できません。がんの診断・治療について単一診療科の医師だけでなく、がん医療に携わる専門職が職種を越えて集まり、患者さんの症状・状態を把握し、治療方針等を意見交換・共有・検討・確認する場がキャンサーボードです。担当科医師以外に外科、内科、放射線科、麻酔科、精神科、緩和ケア科、病理科など関係各科の専門医が集まり、さらに多面的な病状把握によるチーム医療を行うために看護師、薬剤師、療法士（PT、OT、ST）、栄養師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー（MSW）などの各医療スタッフも加わって、

ペインコントロール、緩和的治療、リハビリテーション、経済面など生活の質も考慮したがん患者さんの治療法を包括的に議論します。



これまで、第1回（8月27日）高齢者肺がんの問題点、第2回（9月25日）若年女性の肺がん、第3回（9月30日）肺がんリハビリテーション、をテーマに取り上げています。毎回、症例を1～2例提示しながら、60名前後のスタッフ（半数以上が医師以外です）が集まり活発なディスカッションが行われています。

がん診療連携拠点病院の指定要件としてキャンサーボードの設置および定期開催が位置づけられており、キャンサーボードは地域がん診療における情報共有の役割も担っております。今後、検討を重ねながら飯塚病院ならではのキャンサーボードを確立していきたいと思っています。また地域の医療関係者の方にも参加していただけるオープンな体制と環境が整った際には、改めてご連絡させていただきます。





飛野 広介
呼吸器病センター
呼吸器内科

時の流れは早いもので、早くも新年度に入りました。お忙しくされているかと思いますが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

おかげさまで、昨年度も多くの患者さんをご紹介いただき、対応させていただきました。当科は若手医師も多く、彼ら彼女らにとっても、貴重な経験を積めた一年だったのではないかと思います。

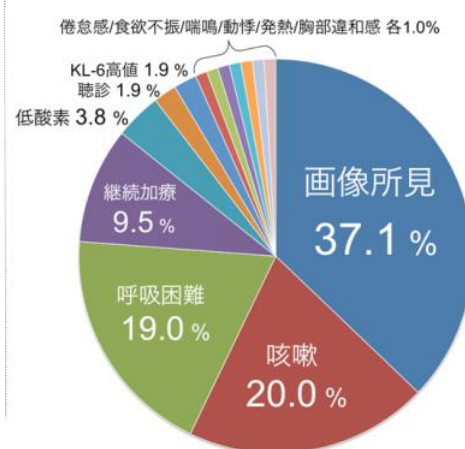
さて、RENKEIの会などでも度々ご報告させていただいておりますが、ここ数年、間質性肺炎の患者さんをご紹介いただく機会が増えています。そこで今回から数回にわたり、当科における間質性肺炎診療を振り返りながら、日々の診療へのフィードバックができればと思っています。

まず、2017年度に間質性肺炎でご紹介いただいた患者さんの紹介理由をみてみました（図1）。咳嗽や呼吸困難など何かしら自覚症状があり、胸部X線やCTで間質性肺炎を疑われ、ご紹介いただくことが多いわけですが、実は画像所見のみの異常でご紹介いただくことも多いことが分かりました。詳細に問診をすれば、多少症状を伴っていることもあるかもしれませんが、いずれにせよ自覚症状がない、あるいは軽微な早期の段階でご紹介いただけているということだと思います。間質性肺炎を完治することこそできませんが、抗線維化薬の導入、難病申請、肺移植など、介入できることが増えているのもまた事実です。介入の機会を逸しないためにも、少しでも怪しいな…と思われた際には、ぜひ当科へご紹介いただければと思います。

なかには、胸部X線所見では何とも

いえないが、捻発音があったから、KL-6が高かったからといった理由でご紹介いただき、当科の精査で間質性肺炎の診断に至った症例もございました。地域の先生方の間質性肺炎に対する意識が高くなっていることを実感し、嬉しく思った瞬間でした。今年度も引き続きよろしくお願いいたします。次回は、もう少し具体的な診療内容に関しても紹介していきます。

図1. ご紹介いただいた理由



第13回 筑豊呼吸器RENKEIの会のお知らせ

この度、「筑豊呼吸器RENKEIの会」を下記の要領にて開催させていただきます。
ご多忙中とは存じますが、万障御繰り合わせの上、是非ともご参加賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2019年 4月 23日（火）

18時40分～20時30分

のがみプレジデントホテル
福岡県飯塚市新立岩12-37
TEL (0948) 22-3840

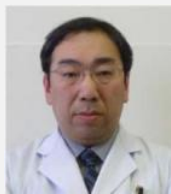
- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------|
| 製品紹介 | Meiji Seikaファルマ株式会社 | 18:40～18:50 |
| 呼吸器内科部長ご挨拶 | | 18:50～19:00 |
| | 飯塚病院 呼吸器病センター 呼吸器内科 部長 飛野 和則 | |
| 呼吸器外科部長ご挨拶 | | 19:00～19:10 |
| | 飯塚病院 呼吸器病センター長 呼吸器外科 部長 大崎 敏弘 | |
| 特別講演1 | | 19:10～19:35 |
| 座長: | 飯塚病院呼吸器病センター 呼吸器内科 部長 飛野 和則 | |
| 『高齢者肺疾患の治療と口腔ケアの重要性について(仮)』 | | |
| | 飯塚病院 呼吸器内科 西澤 早織 | |
| 特別講演2 | | 19:40～20:30 |
| 座長: | 飯塚病院呼吸器病センター 呼吸器外科 部長 大崎敏弘 | |
| 『がん患者の口腔ケアの重要性と医科歯科連携について(仮)』 | | |
| | 飯塚病院 歯科口腔外科 部長 中松 耕治 | |



前回 (2018/09/05) 開催時の様子

★講演会終了後情報交換会を予定しております。ぜひそちらもご参加ください！

呼吸器外科 Topics「ハイブリッド手術室の運用を開始しました」



大崎 敏弘
呼吸器病センター長
呼吸器外科部長

前回のNews letter 第7号でもお知らせしましたが、飯塚病院呼吸器外科では**ハイブリッド手術室**の運用を2018年9月から開始しています。

ハイブリッド手術室(図1)とは、手術室と血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせることにより、最新の医療技術に対応します。大動脈ステントグラフトや径力カテーテル大動脈弁置換術TAVI:Transcatheter Aortic-Valve Implantationなどの先進的な手技を迅速かつ安全に実施することが可能となります。

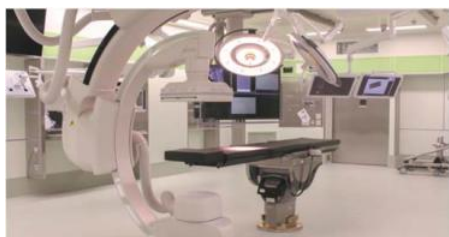


図1 ハイブリッド手術室

呼吸器外科領域ではコーンビームCT機能を用いて、手術中に腫瘍の位置を確認しながら手術を行うため、すりガラス陰影などの小型肺腫瘍(図2)に対して従来CT室で行っていた手術前のCTガイド下の

マーキング(図3)が不要になります。このCTガイド下マーキングは空気塞栓などの重篤な合併症が報告されていますので、このリスクが回避され安全かつ確実な手術が可能になります。

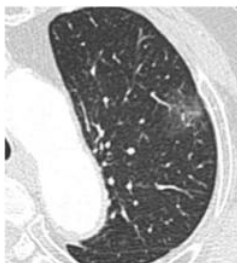


図2 すりガラス陰影 (GGN)



図3 VATSマーカ

この2か月ですりガラス陰影を主体とした小型肺腫瘍4例に対してハイブリッド手術室で胸腔鏡下に肺部分切除を行っています(図4~6)。



図4 CT撮影

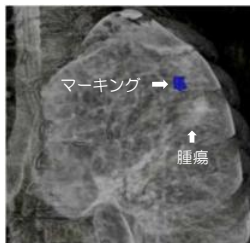


図5 CT画像作成

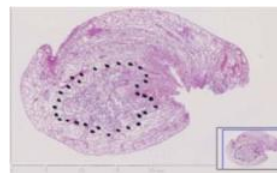
撮影後直ぐにCT画像を合成、マークの位置と実際の腫瘍の位置のずれを確認して腫瘍の切除を行います。

いずれも術中に正確な腫瘍の同定が可能で確実な腫瘍切除が行われました。放射線被ばく量は肺腫瘍の濃度により調節できるため、1回の撮影で1mSV以下に抑えることも可能です。



図6 肺部分切除

胸腔鏡下に臓側胸膜に置いたマーカー(クリップ)を指標として確実な肺部分切除が可能です。



病理学的に上皮内腺癌AIS: Adenocarcinoma in situ と診断されました。

さらに今年度からロボット支援手術の保険適応が拡大され、呼吸器外科領域では肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍が保険適応になりました。筑豊地域では未導入ですが、飯塚病院では外科系各科が協力することで2年後を目標にロボット支援手術da Vinci ダヴィンチの導入を目指しています。

飯塚病院呼吸器外科では最新の医療技術を取り入れながら、より高度な医療をこの筑豊地域で行っていきたいと思っています。

コラム ～ 呼吸器内家のハッピーニュース ～

普段は科内のメンバーの趣味を紹介させていただいているこの欄ですが、今回は、ハッピーニュースをお届けしたいと思います。この度、呼吸器病センターでは、なんと新生児が二人も生まれました～!! (本当におめでたいです、拍手!!) 二人とも無事に生まれて何よりです。お母さんとなったメンバーも、慣れない育児に奮闘しているようです。普段一緒に働いていたメンバーのこういう幸せニュースを聞くと、こちらまでほっこり幸せな気分になります。みなさんにも、この幸せをお裾分けしたく、今回この項で報告させていただきました。添付している幸せ写真を、ぜひじっくりご覧ください(笑)。新米ママさん、いまはおチビちゃんたちのために、一生懸命がんばってきてください!! そして、また一緒に働ける日を楽しみにしています。こちら、ママさんドクターを支えるよう、がんばっていききたいと思います。

【上写真】安田先生(旧姓:浅地先生)、母性にさらに磨きがかかっていました(笑)。旦那さんは以前うちで働いていた安田先生で、いまは神戸大学で活躍されています。【下写真】円山先生(旧姓:神先生)、小さな身体で本当にお疲れ様!! 小さな身体でパワフルにがんばっているようです。



外来担当表

※ 紹介状の宛先は【呼吸器病センター】、【呼吸器内科】、【呼吸器外科】いずれでも構いません。
 ※ 内科、外科どちらか迷う場合は【呼吸器病センター】宛にご紹介ください。○：初診 ●：再診

内科 医師	月	火	水	木	金
海老 規之	○/●	○	○	○/●	○
飛野 和則		○/●	○/●		○/●
霧野 広介	○/●			○/●	
井手 ひろみ	○/●	○/●			
吉松 由貴		○/●	○/●		
西澤 早織		○/●	○/●		
吉峯 晃平				(第2・4週は睡眠時無呼吸外来)	○/●
棟近 幸					○/●
末安 巧人				○/●	
神 幸希				○/●	
後藤 夕輝	○/●				
岡久 将暢					○/●
山本 英彦			●		

外科 医師	月	火	水	木	金
大崎 敏弘	○/●				○/●
宗 知子				○/●	
安田 学		○/●			
岩田 輝男			○/●		

日本呼吸器学会呼吸器専門医8名、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医4名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医5名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医1名

呼吸器内科 専門外来のお知らせ

呼吸器内科では、喘息、COPD、間質性肺炎の患者さんを対象に、専門外来を始めました。これらの疾患の病勢評価、治療薬の調整などを検討される患者さんがいらっしゃるようでしたら、ぜひ呼吸器内科外来へご紹介ください（呼吸器内科外来をご紹介いただいた後、各専門外来へ振り分けます）。

2018年4月～10月の主な学会発表

第35回 日本呼吸器外科学会総会（5/17～18、千葉）

- ・ 肺がん肺転移に対する肺切除症例の検討（西澤 夏将）
- ・ 胸腺腫術後再発に対して再切除を行った4例（西澤 夏将）
- ・ 胸部原発肉腫に対する手術症例の検討（宗 知子）
- ・ 肺がん術後反回神経麻痺の検討（小舘 満太郎）

第41回日本呼吸器内視鏡学会総会（5/24～25、東京）

- ・ 胸腺腫に対する胸腔鏡下胸腺腫摘出術の検討（大崎 敏弘）

第51回日本胸部外科学会九州地方会総会（8/23～24、鹿児島）

- ・ 迷走神経と肋間神経由来の多発神経鞘腫の1例（小林 健一）

第58回日本呼吸器学会学術講演会（4/27～29、大阪）

- ・ 膿胸の治療転帰予測における各種重症度予測スコアの有用性について（霧野 広介）
- ・ 誤嚥性肺炎診断時の血液培養の意義（岡久 将暢）
- ・ 救急外来における肺炎診断時のCTの意義（末安 巧人）
- ・ 当院の外科手術症例における呼吸器疾患の検討（神 幸希）
- ・ 難治性気胸に対する胸腔造影の有用性の検討（西澤 早織）
- ・ 自然気胸の脱気後の経過予測における胸腔内圧測定の有用性（後藤 夕輝）
- ・ 嚥下評価の所見とCOP増悪歴の関連性の検討（吉松 由貴）
- ・ CAP/NHCAPの予後予測におけるNEWS-Lの有用性（村上 行人）
- ・ 単純X線写真を用いた自然気胸の短期的予後予測（吉峯 晃平）

第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（5/24～25、東京）

- ・ 声帯・気管・気管支クリプトコッカス症の一例（吉峯 晃平）
- ・ 喀血精査中に発見された気管支型平滑筋腫の一例（末安 巧人）



呼吸器病センター開設5周年記念懇親会を平成30年9月4日のがみブ
 レジデントホテルで盛大に行いました。それに先立ち第12回筑豊呼
 吸器RENKEIの会 特別講演として産業医科大学第2外科教授 田中文
 啓先生から「肺癌治療の進歩」、久留米大学病院呼吸器病センター教
 授 川山智隆先生から「COPDの病態と治療戦略～併存症にひそむ
 COPD～」として最新の話題をお話いただきました。



福市 有希子先生が平成30年7月21日第8回福岡胸部外科疾患研究会
 で発表した「重粒子線治療後サルベージ手術中の肺動脈損傷の1例」
 で優秀演題賞、平成30年8月24日第51回日本胸部外科学会九州地
 方会総会で発表した「再発胸腺腫に対して複数回切除を行い長期生存
 中の1例」でCase Report Award 最優秀演題賞を連続受賞しまし
 た。おめでとうございます！



霧野 広介
 呼吸器病センター
 呼吸器内科

～ 編集後記 ～

大崎先生の思いつきから始まったこのニュースレ
 ターも、おかげさまで第8号を迎えるに至りまし
 た。今回はまたバラエティーに富んだおもしろい
 内容かと自負しておりますが（笑）、みなさまい
 かがだったでしょうか。ちょっとした息抜きにな
 れば、編集者冥利に尽きます。今後も知識や仕事
 のことのみならず、呼吸器病センターのメンバ
 ーの人間味もお伝えできればと思っています。